令和６年度高槻市中心市街地活性化協議会
にぎわい・商業活性化部会 報告会　会議録

はじめに

第２期中心市街地活性化基本計画が終了した現在、中心市街地活性化協議会は一時的に休会となっているが、令和６年度に協議会の商業者会員からの推薦者を中心として「にぎわい・商業活性化部会」を結成し、安満遺跡公園などの新たな集客拠点からの人流づくり等を目的に議論を重ねた。今回はその活動内容について部会長から報告するものとする。

日　　時	令和７年３月６日（木）１１：００～１２：００
場　　所	高槻商工会議所　４階大ホール
出 席 者	協議会会員（商業者会員のみ）　７名
報 告 者	にぎわい・商業活性化部会　部会長　寺本 佳弘　氏
事 務 局	高槻商工会議所　高槻都市開発株式会社
市 担 当	産業振興課

１．開会

高槻市中心市街地活性化協議会事務局 高槻商工会議所 新美専務　挨拶

２．にぎわい・商業活性化部会　令和６年度の取組報告

にぎわい・商業活性化部会　部会長 寺本 佳弘　氏より報告

・にぎわい・商業活性化部会　基本情報
・各回の議論内容
・試行的企画の内容と結果
・地域商業活性化の今後の方向性

３．意見交換

ＧＰ１・入店者会　会長　杉岡　宗雄　氏

・例えば、自店への納品しているメーカの人などから、新快速が停まる街が発展していると聞くことがある。また、ＪＲ駅と阪急駅の間が 700 メートルぐらいで、買い回りには理想的な距離のようである。
・安満遺跡公園に相当数の人が来ている中、これらの来訪者を取り込むのはやはり重要な課題

である。

・スクラム高槻「地元のお店応援券」は、自店に来る島本町や吹田市、枚方市など近隣のお客様に羨ましがられることが多い。大型店での使用ばかりにならないよう、商店街などの中小零細店舗にしっかりと目を向けた制度である。この点は、木ノ山商団連会長をはじめ、街の商業者はありがたく思っている。

・商業者の側にも不断の努力が必要である。品揃えから顧客対応、歴史など高槻の誇れる要素の発信など、様々勉強し高めていかねばならない。

芥川商店街事業協同組合　理事長　佐々木　晶　氏

・芥川商店街は将棋会館をメインにイメージ付けを行っていきたいところであるが、対局情報なども、確かにこちらから取りにいくよりも一度に発信されるような仕組みがあれば、商店街でも活用しやすいと思われる。

アクトアモーレ店舗会　副会長　荘田　賢一　氏

・アクトアモーレ店舗会でも近隣飲食店のマップなどは置いてあり、各団体でもすでにされていると思うが、中心市街地でネットワークを組んで閲覧できるサイトを作ったり、手を取る姿勢を強めていくことが大事であると思う。

・高槻にはシンボルがないという話をよく聞く。高槻では「ここに集合」という場所は確かになく、街に出たり歩いたりするうえでは、分かりやすい象徴が必要に思える。

阪急高槻駅南駅前通り商業振興会　副理事長　生駒　清隆　氏

・部会活動は段階を経ていて良いと思う。阪急高槻南駅前通りにもマップはあるが、やはりそれぞれの商店街が協力し合って「面」としての濃密な情報を発信していかれればよいと思う。

・中心市街地は徒歩と自転車の人がメインであり、自転車の人は目的地に向かうが、歩く人はぶらりと街歩きをしている場合もある。しかし、街歩きをするには狭い歩道が多く、気兼ねせず立ち止まってどちらに進むか迷えるくらいの歩道に整備する必要があると思う。

・快適に歩ける街にしようと思えば、合間に休憩できる空間も必要に思える。次はどこをぶらぶらしようかなど相談もできる。官民協力して街の整備について考えていくことが大事に思う。

高槻阪急スクエア　店長　塩澤　亨　氏

・街なかでは「居心地の良さ」がポイントになると思われる。わざわざ来てもらうのはハードルが高く、何故かいつもこの店や空間に居てしまっている、というような店づくりが大事だと思っている。
・高槻は、他所の街よりかなり活力がある。呼び込むことも大事だが、すでに街にたくさんの人がいる。このため新しく呼ぶことにこだわり過ぎず、すでに来ている人に対し、どういうニーズで街にいるのか、どういう訴求をすればさらに来るようになるのか、次の段階ではこの点を具体に細かく整理しつつ、色んな人に多くの情報を発信すると届かないので、街としてどういうお客様にどういう情報発信をしていくのか、テーマ別と対象を定めて発信していけばよいと思う。

たかつき中通り本通り商店街振興会　会長　中川　修一　氏

・安満遺跡公園や芸術文化劇場の非日常性と、商店街という日常は繋がりにくいように思える。
・茨木のおにクルは、毛色の異なる色んな施設が複合的に入っており、バラバラのようだが多くの来場者を呼んでいる。街づくりには日常と非日常をうまく合体させることが肝要かも知れず、街の１０年後や２０年後を思いながら、こういう観点で整理していくことも重要に思える。
・どの街を見ても中心部が充実していないと全体が発展しない。今、部会で議論頂いていることは将来に渡り街にとって重要である。

４．閉会

・高槻市中心市街地活性化協議会 副会長　木ノ山　雅章　氏　挨拶

　４０年ほど前、高槻の街は商店街など「線」ばかりであった。それを「面」に変えることについては当時より議論されてきた。特にＪＲの線路を挟み南北が分かれている感覚がある中、それは非常に難しいことで、先輩方も苦労されてきた。この４０年を振り返ると、今回の部会のようにハイレベルな議論になってきたことが大変喜ばしく感じられる。
　ここへきて、安満遺跡公園や芸術文化劇場の来場者に来てもらおうという、街の商業に新たな概念が生まれた。お客様を呼ぶためによく行われる策としては、お子様にはお菓子や景品を差し上げたり、大人の方には割引や商品券を発行するなど。しかしそれらは常時できるものではないので、公園や劇場の来場者も対象にしながら、街に慣れ親しんでいって頂くための努力を地道に続けていくことが重要である。

かねてより、街は中心が栄えていてこそ全体が発展すると言われている。近年、高槻市全体の人口は減少しているが、逆に中心市街地の人口や、市全体の世帯数は増加傾向にある。これについては、街としての魅力が増えていると理解することもできる。商業以外にも、交通や医療、学校など、中心市街地を構成する各方面の方々の努力の賜物である。

今後も、例えば旧市民会館跡地が高槻城公園の一部に再整備される予定である。公園や劇場に続き、高槻市の街の整備は次々と進んでいく。行政がハード面に力を注ぐ一方で、我々街の事業者はソフトの面で努力せねばならない。活性化の議論に正解や終わりはないが、引き続き部会の方々とともに思案して参りたい。

以上